

「見える化」を用いた取組の活性化

～ミドルリーダーが牽引する協働文化の醸成～

【観点Ⅱ・Ⅲ】杵築市立八坂小学校（児童数138人 学級数8） 別府教育事務所

現状・課題

校種や規模に応じた効果的な検証改善体制の構築が管内全体で課題

- ・目標達成に向けた検証・改善体制及びプロセスの充実（ポイント8,9）
- ・主任等ミドルリーダーを中心とした進捗管理体制の構築（ポイント10,11）

取組内容

育成を目指す資質・能力「協働する力」を目指した取組の推進

【座席配置の工夫】

ALT	6年
4年	3年
そよかぜ	たんぽぽ
5年	1年
教務	2年

- =日常的な対話の工夫=
- ・若手2人の傍に教務主任（声かけ・確認）
- ・支援学級担任を交流学級各担任で囲む
- ・分掌主任を近くに配置（分掌間の相談体制）

【ミドルリーダーを中心としたチーム体制】



=ミドルリーダーの役割=

○分掌チームの推進役

- ・自発的な振り返りの場の設定

○「4点セット」の進行管理

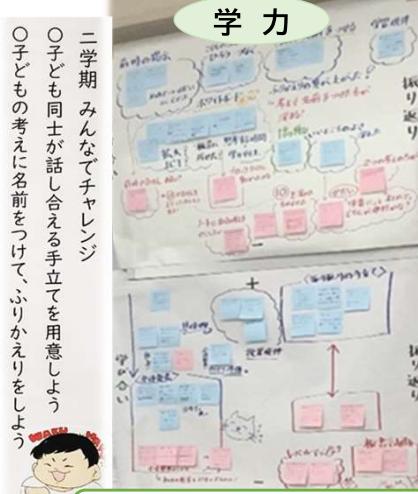
- ・分掌会議で、各チームによる中間の検証・改善、翌月の行動計画立案

○若手教員の相談役

- ・若手からの研究授業前の相談に乗り、具体的な指導助言で成長を支援

【主体性を引き出す「生きた掲示」】

学力



生活力



体力



8月は、前の月に比べて残した量が7口に減りました!!みんなが少しずつ意識をしてくれている結果のあらわれだと思います!!まだまた運動会練習も続きます。しっかり食べて体力をつけましょ。

授業改善に向けた協議
内容を職員室内で共有

ピカピカ大作戦の結果を
廊下に貼って成果を共有

残菜調査を子どもと共有
(給食センターとの協働)

成果

- ・分掌主任（ミドルリーダー）が役割を自覚し、組織全体で若手を育てる意識の向上が見られた。
- ・達成感が次の意欲へ。各部会でアイデアが出し合われ、自発的な取組の検証・改善が進んでいる。
- ・取組の質の向上が児童の成果を生み、職員の意欲をさらに高める循環ができている。
- ・日常の積み重ねが目標達成につながると実感し、全員が主体的に参画できている。

周囲の声より

○座席配置の変更により、全体を見て細かいところまで指導できた。

○やってみたいと思ったことが形や効果に表れ、学校全体の成長を実感できることが、楽しくおもしろい。

導入を検討する学校へ

- ・分掌部会のリーダーを誰にするかを人材育成の観点で考え、職員の参画意識を高める。
- ・みんなで明るく力を合わせて頑張ろうとする職員室の雰囲気づくり、風土の醸成が大切。